

平成 29 年 郡上市観光入込統計調査結果（概要）

1. 調査について

調査期間 平成 29 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間

調査対象 ・観光地点の定義（81 地点）

市内の年間観光客が 1 万人以上又は季節的観光客が月間 5 千人以上の観光施設・地点、または、行・祭事、イベント。

その他、市が独自で調査する地点。

・宿泊施設の定義（H29.12 時点営業施設 153 件）

市内の宿泊施設で、管理者が明確で常駐しており、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。

ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居（民泊）、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

2. 結果の概要

- ・宿泊客数は、約 43 万人泊で前年より約 2 万 3 千人泊（△5.0%）の減少
- ・外国人宿泊客数は、約 2 万 2 千人泊で約 4 千 8 百人泊（28.2%）の増加
- ・観光入込客数は、約 569 万人で前年より約 20 万人（△3.3%）の減少

本市の平成 29 年の観光入込客数と宿泊客数についてはともに減少し、外国人宿泊客数については増加した。

宿泊客数については全体で約 5%減となったが、岐阜県全体の宿泊客数も減少傾向にある。

外国人宿泊客数は、国内全体の傾向と同様に増加しており、平成 29 年は前年比 28.2%の 21,685 人泊となった。東アジアからの宿泊客数は 8%増に留まったものの、欧米からの宿泊客数は約 2 倍、東南アジアからの宿泊客数は約 3 倍に伸びた。特に誘客に力を入れてきたタイからの宿泊客数は約 4,400 人増となっており、インバウンド事業の成果が表れていると考えられる。

観光入込客数について、昨年よりも減少率が小さくなっているのは、スキー場の入込が回復したことによると考えられる。特に平成 29 年シーズン前半（平成 29 年 11 月、12 月）は早い時期からまとまった降雪に恵まれたことでオープンを早めるスキー場もあった。市内スキー場のほとんどが昨年比を上回る入込客数となり、スキー場全体の年間入込客数は約 131 万人で、約 17 万人（前年対比 14.6%）増となった。

対して、「道の駅 白鳥」工事の影響や、10 月、11 月の秋の行楽シーズンの休日に天候不良が重なったことが全体の入込客数減少につながったとみられる。

上記の他、自然体験施設や食品サンプル体験施設の入込客数が減少している。新規客を呼び込むために効果的な情報発信の手段を検討するほか、リピーターにも楽しんでもらえるよう、ニーズを絞ったモデルコースの作成や新しい観光コンテンツの掘り起こしが必要であると考えられる。

3. 宿泊客数について

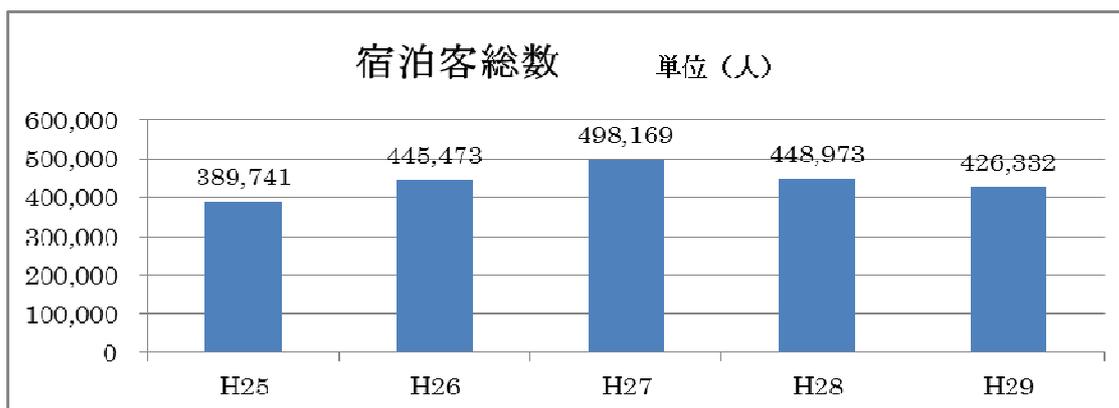
(1) 過去 5 年の推移

宿泊客数は 426,332 人泊で、前年に比べて 22,641 人泊 ($\Delta 5.0\%$) 減少している。過去 5 年で見ると平成 27 年をピークに 2 年連続で減少しており、岐阜県全体の宿泊客数の傾向と一致している。

単位(人泊)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
宿泊客総数	389,741	445,473	498,169	448,973	426,332
対前年比	100.7%	114.3%	111.8%	90.1%	95.0%

※ 平成 27 年はふるさと旅行券などの影響で全国的に増加



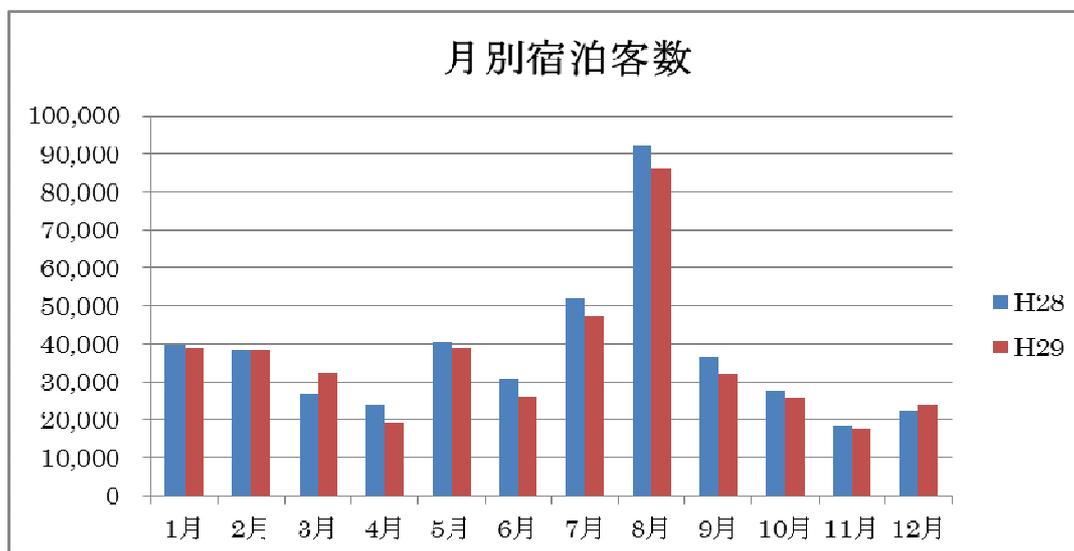
(2) 月別の宿泊状況

月別の宿泊客数の傾向は前年度と変わらず、8月、7月、5月の順で多く、11月、12月、4月の順で少なかった。

月ごとの宿泊客数については、2月、3月、12月が前年を上回っており、前年よりもスキー客が増加したことが要因と考えられる。

単位(人泊)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H28	39,829	38,625	26,628	24,182	40,340	30,932	51,815	92,223	36,227	27,476	18,320	22,376
H29	38,700	38,660	32,363	19,114	38,868	25,868	47,326	86,114	32,056	25,747	17,482	24,034



(3) 地域別の宿泊状況

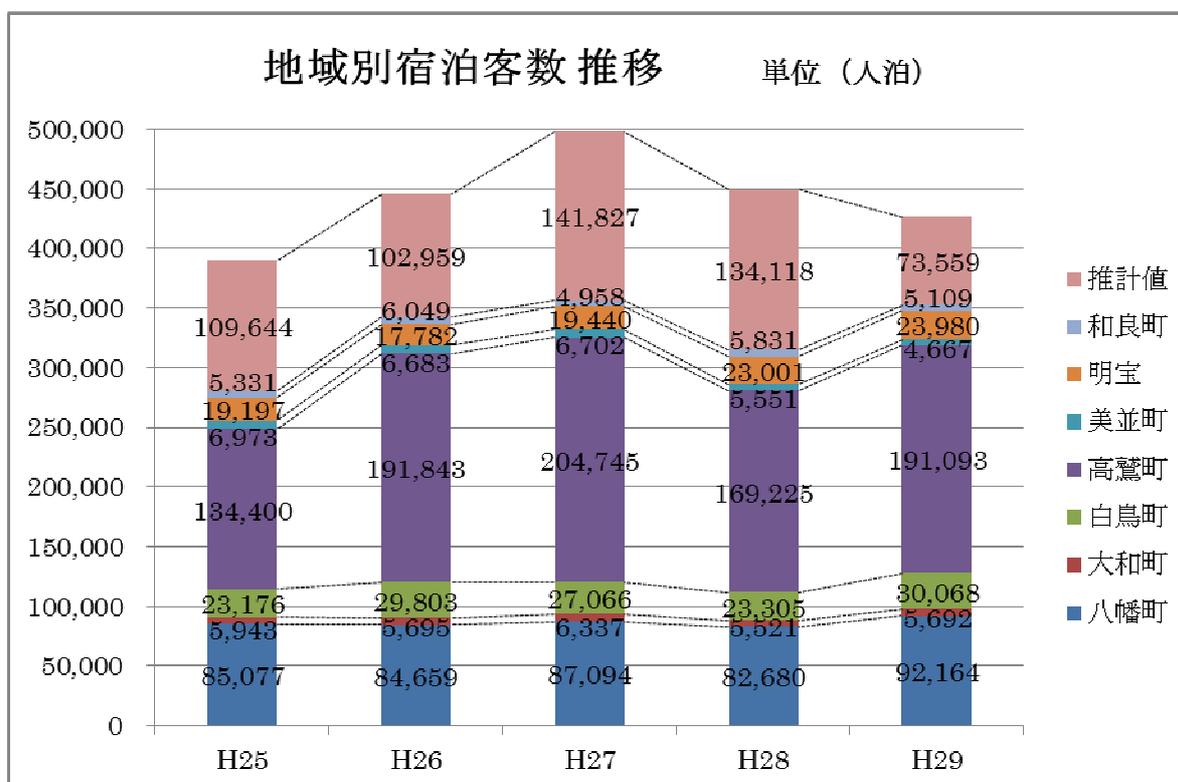
地域別の宿泊客数は、高鷲町 191,093 人泊（構成比 54.2%）、八幡町 92,164 人泊（構成比 26.1%）、白鳥町 30,068 人泊（構成比 8.5%）、明宝 23,980 人泊（構成比 6.8%）、大和町 5,692 人泊（構成比 1.6%）、和良町 5,109 人泊（構成比 1.4%）、美並町 4,667 人泊（構成比 1.3%）となった。

前年比では、スキー場の入込客数が昨年よりも増加した高鷲町で 29.0%、白鳥町で 12.9%増加した。八幡町は 11.5%増加しており、これは個人旅行客のビジネスホテル利用が増加したことによると考えられる。

単位（人泊）

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	対前年比
八幡町	85,077	84,659	87,094	82,680	92,164	111.5%
大和町	5,943	5,695	6,337	5,521	5,692	103.1%
白鳥町	23,176	29,803	27,066	23,305	30,068	129.0%
高鷲町	134,400	191,843	204,745	169,225	191,093	112.9%
美並町	6,973	6,683	6,702	5,551	4,667	84.1%
明宝	19,197	17,782	19,440	23,001	23,980	104.3%
和良町	5,331	6,049	4,958	5,831	5,109	87.6%
推計値	109,644	102,959	141,827	134,118	73,559	54.8%
市計	389,741	445,473	498,169	449,232	426,332	94.9%

※ 各地域の数値及び推計値は、施設の回答率により年毎に変動することがある。



(4) 外国人宿泊客数について

外国人宿泊客数は、前年の 16,918 人泊から 4,767 人泊 (28.2%) 増加し、21,685 人泊となった。

国別ではタイ (6,238 人泊) が最も多く、次いで台湾 (3,312 人泊)、香港 (2,428 人泊) となった。今年度セールスコールや招聘などの誘客に力を入れてきたタイ・台湾からの宿泊客数が増加しており、インバウンド事業の取り組みの成果が表れていると考えられる。

また、その他の調査国についてもほとんどが前年比を上回っている。

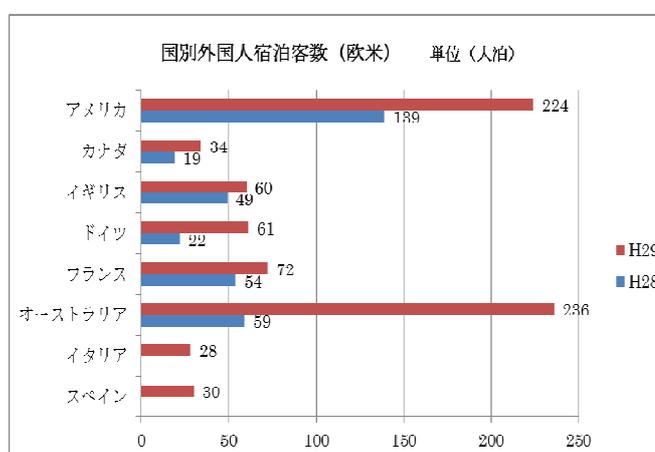
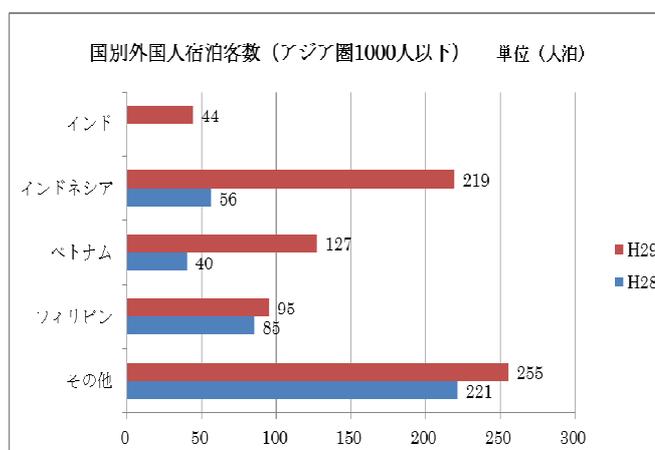
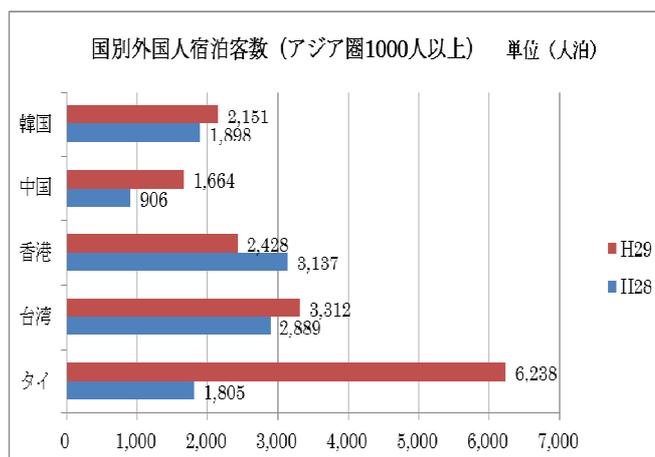
なお、国・地域別の宿泊客数については、団体ツアー等の受け入れ可能な市内宿泊施設がある程度限られることから、宿泊施設の状況や団体旅行のコース設定などによって、前年との比較が大きく変動するケースが見られる。

単位(人泊)

	H28	H29	対前年比
韓国	1,898	2,151	113.3%
中国	906	1,664	183.7%
香港	3,137	2,428	77.4%
台湾	2,889	3,312	114.6%
アメリカ	139	224	161.2%
カナダ	19	34	178.9%
イギリス	49	60	122.4%
ドイツ	22	61	277.3%
フランス	54	72	133.3%
ロシア		50	※1
シンガポール	324	184	56.8%
タイ	1,805	6,238	345.6%
マレーシア	22	316	1436.4%
インド		44	※1
オーストラリア	59	236	400.0%
インドネシア	56	219	391.1%
ベトナム	40	127	317.5%
フィリピン	85	95	111.8%
イタリア		28	※1
スペイン		30	※1
その他	221	255	115.4%
国籍不明	149	72	48.3%
推計値	5,044	3,785	75.0%
市 計(※2)	16,918	21,685	128.2%

※1 平成 28 年が空欄になっている国については、平成 29 年より調査を開始した。

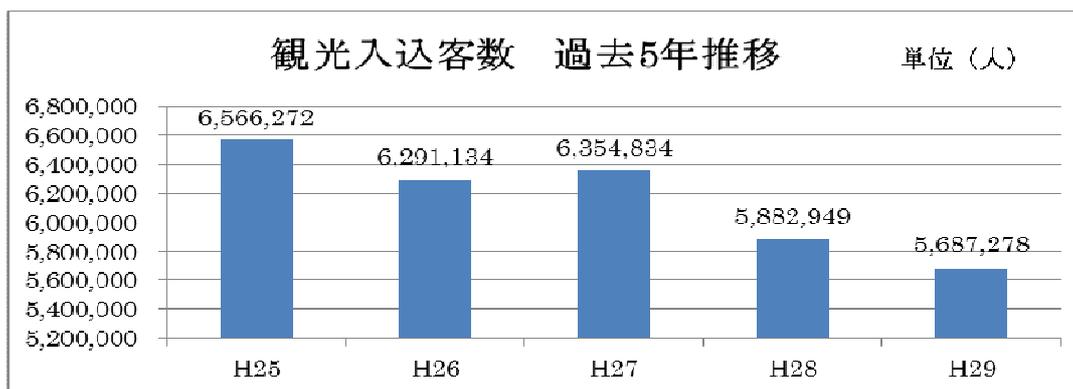
※2 市計の数値には、調査未回答施設の推計値も含むため各地域の合計値とは異なる。



平成 29 年 1 月から 12 月までの 1 年間で、市内の観光施設・地点（74 地点）及び行・祭事、イベント（7 地点）を訪れた観光入込客数は 5,687,278 人で、前年に比べ 195,671 人（△3.3%）減少した。

単位(人)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
入込総数	6,566,272	6,291,134	6,354,834	5,882,949	5,687,278
対前年比	104.1%	95.8%	101.0%	92.6%	96.7%



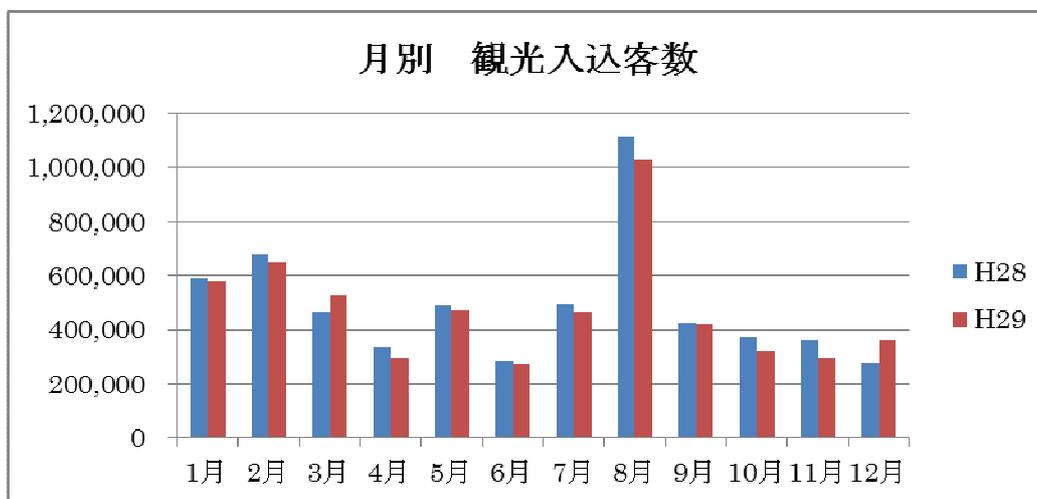
(2) 月別の入込状況

月別の観光入込客数は郡上おどりや白鳥おどりの他納涼スポットの入込が増える8月が最も多く、次いでスキー場などのレクリエーションや温泉の入込客数が増える2月、1月の順となった。

入込の少ない月は6月、11月、4月の順となった。4月、6月については例年も入込が少ない傾向で、11月は中旬以降に天候不良と気温の低い日が続いたため例年に比べ入込が減少したと考えられる。

単位(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H28	588,974	677,970	464,818	333,407	489,678	283,714	494,907	1,115,394	425,167	372,868	360,650	275,402
H29	580,969	648,091	525,651	298,114	469,627	274,405	465,671	1,026,160	417,836	319,239	297,020	364,495



(3) 地域別の入込状況

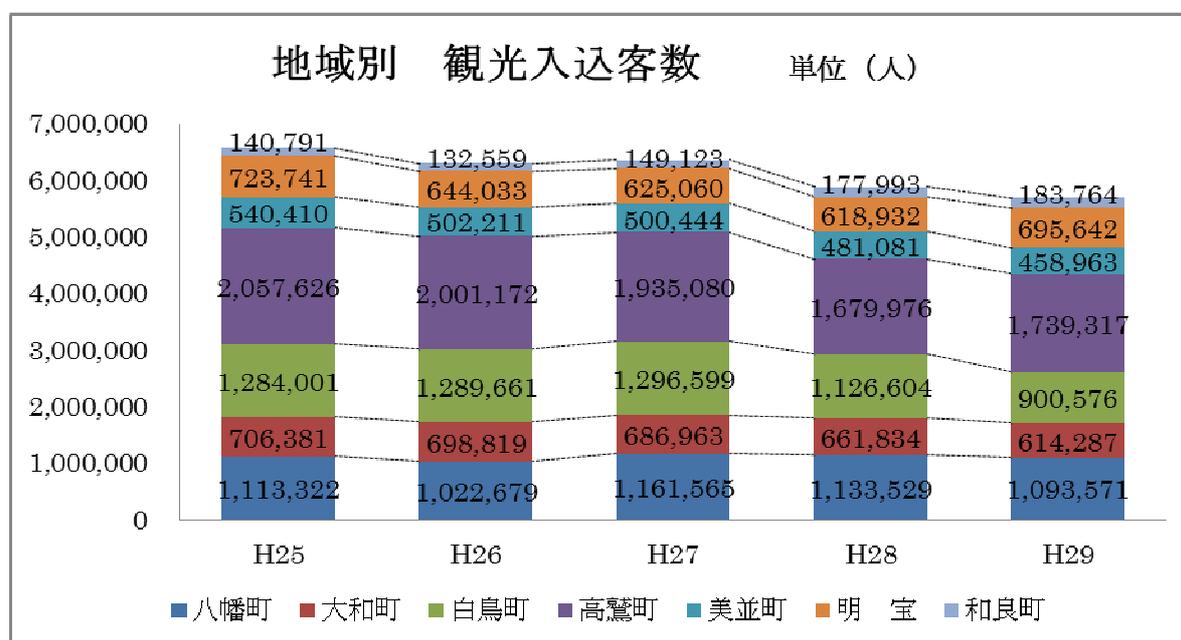
各地域別の入込客数の前年比は、スキー場や道の駅が好調だった明宝で 12.4%増、高鷲町が 3.5%増、昨年同様道の駅が好調だった和良町で 3.2%増だった。

「道の駅 白鳥」リニューアル工事の影響で入込客数が減少した白鳥町は△20.1%となったが、平成 30 年 6 月にはあゆパークのオープンと共に道の駅もリニューアルオープンされるため、回復が期待される。

その他、天候不良の影響で郡上おどりの中止などがあった八幡町では△3.8%、道の駅や屋外施設での入込の減少が見られた大和町で△8.2%、美並町で△4.6%となった。

単位(人)

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
八幡町	1,113,322	1,022,679	1,161,565	1,133,529	1,093,571
大和町	706,381	698,819	686,963	661,834	614,287
白鳥町	1,284,001	1,289,661	1,296,599	1,126,604	900,576
高鷲町	2,057,626	2,001,172	1,935,080	1,679,976	1,739,317
美並町	540,410	502,211	500,444	481,081	458,963
明 宝	723,741	644,033	625,060	618,932	695,642
和良町	140,791	132,559	149,123	177,993	183,764
市 計	6,566,272	6,291,134	6,354,834	5,879,949	5,686,120



(4) 観光地点分類別の入込状況

観光入込客の地点分類別構成比の傾向は例年と大きく変わらず、道の駅などの「買物」、スキー場などの「スポーツ・レクリエーション」、「温泉」の順となった。

前年比では、天候に恵まれた「イベント」で 15.3%、スキー場の入込が増加した「スポーツ・レクリエーション」で 9.6%増加した。

対して、「買物」については構成比は高いものの「道の駅 白鳥」リニューアル工事の影響で入込客数は△13.5%となった。

単位(人)

	平成 28 年	平成 29 年	対前年比	構成比
自然	396,591	405,185	102.2%	7.1%
文化・歴史	420,570	397,685	94.6%	7.0%
産業観光	559,847	528,481	94.4%	9.3%
スポーツ・レクリエーション	1,307,351	1,433,076	109.6%	25.2%
温泉	813,566	794,045	97.6%	14.0%
買物	1,878,984	1,625,006	86.5%	28.6%
行・祭事	388,200	371,400	95.7%	6.5%
イベント	114,840	132,400	115.3%	2.3%
市 計	5,879,949	5,687,278	96.7%	100.0%

